

企業 CSR の一環として自社保有の森を環境学習や調査の場に提供

25. トヨタの森【愛知県豊田市】

範 囲	対象林地は豊田市市街地の南東 6km、矢作川と巴川に挟まれた中流部丘陵台地上、標高 30 ~ 130mに位置する森林。	
所 在 地	愛知県豊田市岩倉・渡合	
生 物 地 理 区 分	アカマツ林	
環 境 要 素	二次林(), 草地、ため池、池沼・湿地、人工林	
自然条件	地 形	豊田市は、市のほぼ中央を貫流する矢作川の上・中流部に位置する。市域は東・北部の三河高原を形成する山間部と西・南部の西三河平野につながる丘陵・平野部からなり、標高 3.2mから 1,240mに至る変化に富んだ地形となっている。
	植生・生物等	豊かな水を育む森林が市域の約 7 割を占め、山間部は香嵐渓、三河湖などの観光資源に恵まれている。 (RDB 種以外) 植物... コモウセンゴケ、モウセンゴケ、サワギキョウ、ミズギボウシ、ノハナショウブ 動物... フクロウ、ムササビ、タヌキ
社会条件	人口(市町村)	421,552人(農家率4.4%、副業的兼業農家が多い) 豊田市のデータ(H22年)
	土 地 利 用	市総面積の 7.5%が田畑、68.1%が山林である。 豊田市のデータ(H22年) 対象地区はトヨタ自動車の所有地(76ha)であり、そのうち 15haが「トヨタの森・フォレストヒルズモデル林」として整備されている。
	歴 史 ・ 文 化	当地域は、明治から大正にかけて「三河地方有数のマユの集散地」として養蚕・製糸業を中心に発展した。その後、生糸の需要の衰えをきっかけに自動車産業の誘致が行われ、昭和 13 年、トヨタ自動車(株)の工場が論地ヶ原の丘陵地に完成し、「クルマのまち」として歩み出した。また本市には、松平郷、棒の手、小原和紙、三州足助屋敷などの歴史的・文化的な地域資源や伝統行事などが豊富にある。
法指定、行政による評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	保安林
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	環境省「モニタリングサイト 1000 里地調査」の一般サイトとして選定(2008 年度) SEGES(社会・環境貢献緑地評価システム) Superlative Stage の認証取得(H23~)



撮影時期：2002 年 2 月
棚田跡地を利用した湿生生物観察園全景

取組主体	タイプ	NPO企業等：NPO・企業・学校等地域の外からの参加者が中心となった取組		
	主な主体	名称	概要	
		トヨタ自動車株式会社	企業(本社は愛知県豊田市)	
経緯	トヨタ自動車は、森がもともと持っている「力」について調べ、活用するために、豊田市郊外のフォレストスタヒルズに「トヨタの森」を造成。当該対象地は、かつて良好な里山環境にあったが、エネルギー革命以降、利用が途絶え鬱蒼とした暗い森林になっていた。トヨタ自動車では、この環境を改善し、自然とのふれあいの場をつくろうと1995年-1996年、主に森林内に「光と風」を導入する除伐を主体とする整備を行い、21世紀の里山を目指した森林再生に着手した。以降、生物や自然環境を調査し、それを現場にフィードバックすることで、よりよい里山環境の保全に取り組んできた。また、整備された環境は、自然体験の場として地域に開放するとともに、市民の手による里山再生を進めてきた。現在、「整備ゾーン」「保全ゾーン」「活用ゾーン」の3つのゾーンに分けて整備を進めている。			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	人と自然が隣り合わせた状況の下で、生態系の保全方法や、環境問題に対応する里山の活用方法について、様々なメニューを用意し“21世紀の里山”の姿を、地域の人々と共に考えていく。			
取組分野・内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	該当なし		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 該当なし		
	環境教育や自然体験、エコツアーの場としての利用	自然観察会		
		環境教育・学習活動	青少年自然体験学習支援プログラム：地域の小学生等にインタープリター付き解説、自然とのふれあいの場を提供、年間170回以上の実施	
		里地里山体験・環境保全	親子森あそび体験プログラム(4回/年)里山体験プログラム(毎週1回)地域住民対象の里山整備体験プログラム(毎月1回)の実施	
		農林業体験活動		
		エコツアー		
その他				
野生動植物やその生息地の保全・管理	水田放棄農地を湿生草原に誘導した湿生園整備や、ため池跡後背地の貧栄養湿地化を行い当地域の生物の生息・生育環境を保全。 湿生園...ヨシ、カササゲなど強繁殖種の刈り取り(エリア毎に強弱をつけ1-2回/年実施) シデコブシの谷...周辺抜開、更新試験の実施 フクロウの谷...生息環境の保全(棲み家、餌場、空間の整備)			
地域の良好な景観の保全・修復	該当なし			
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】	
		資源利用技術		
		その他		
	該当なし			
連携・協働	里地里山の保全・管理に関する基礎資料とする、エコモニタリング(自然環境調査)の実施(1998年度-2007年度) 実施主体：トヨタ自動車 連携内容：フィールド 活動資金の提供：トヨタ自動車 エコモニタリング業務実施：住友林業、住友林業緑化 調査実施：プレック研究所 なお、2008年度以降は市民参加によるエコモニタリングに移行。			



撮影時期：2004年5月

中高木層を残すように整備をした典型的な整備林とフィールドサイン。猛禽の狩り場となる。

撮影時期：

景観としての 利用・評価

地域の一般の方々に気楽に利用いただくことを目的として、2006年度に「森あるきコース」「森のいやしコース」の2種類の健康ウォーキングガイドシートを作成した。これを拠点施設に設置するなどの活動により、年間1,000人程度の散策利用者がある。

SEGES(シージェス:社会・環境貢献緑地評価システム)による評価が最高ランクに到達(平成23/4~)。

取組の特徴

広域的視点と地域での連携を活かした里山環境再生の取組で、「新たな公」としての可能性を有する。
当企業では、敷地内の森を整備したことをきっかけに、生物や自然環境を調査するとともに、自然体験の場として地域に開放し、市民の手も借りながら里山再生に取り組んでいる。「手入れ、整備による効果の科学的手法に基づく継続的な把握、および整備へのフィードバック」「回復した自然環境と、それを活用した自然体験学習の場の提供」が当該対象地の特色である。

また基礎資料とするため、エコモニタリング(自然環境調査)を継続しており、蓄積したデータをトヨタ自動車のホームページにて公開している。当該地域でのモニタリング結果を、地域の他のモニタリング結果とすり合わせ、地域一体となった取り組みを期待したい。

【参照資料】

トヨタ自動車株式会社グローバルサイト(<http://www.toyota.co.jp/toyotanomori>)

第7次豊田市総合計画